

WIFE ARE ASICS

CONTENTS

概要

当レポートについて	1
CEOメッセージ	2
会社概要	3
アシックスのサステナビリティ	4
基本方針	4
ガバナンス	5
アシックスのマテリアリティ評価プログラム	6
ステークホルダーとの関わり	7
2020年までのサステナビリティ戦略の策定	8
2015年度目標と進捗	9
社外からの評価	12

13



セクション 1:

製品とサービスの創造

アシックスの取り組み	14
主な活動結果	14
製品設計と革新	15
健康的で持続可能なライフスタイルの推進	20
環境負荷の低減	21

27



セクション 2:

サプライヤーとの協力

アシックスの取り組み	28
主な活動結果	28
サプライチェーンの管理	29
工場評価	30
部門間の連携	32
方針とガイドライン	32
製造時の環境負荷管理	33
研修と能力向上	34
パートナーシップ	35

36



セクション 3:

人材への投資と社会貢献

アシックスの取り組み	37
主な活動結果	37
従業員への投資	38
社会貢献	40

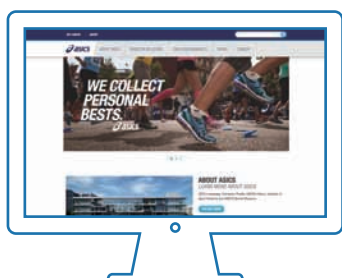
当レポートについて

スポーツで成功するには、単に望むだけでは十分ではありません。ジムに行ったり、時々走ったりしても、それだけでは限界があります。何かを成し遂げるには、本当の野心と献身的な努力が必要です。この姿勢がアシックスの魂です。成長を続けるグローバル企業として、私たちが日々、貫き続けなければならないことです。

私たちは60年以上にわたり、お客様のアスレチック・パフォーマンスの向上に貢献してきました。最高の製品を創造するため、絶え間なく研究と技術革新を続けています。私たちは、お客様の更なる挑戦を支援し続けるため全ての活動で継続して向上に努めます。

2011年から2015年にかけて、アシックスは中期経営計画「アシックス・グロース・プラン(AGP) 2015」に基づくサステナビリティ活動に取り組んできました。この間、私たちは大きな成果を上げることができました。また、困難にも直面しました。そして、その全ての段階で、貴重な教訓を学びました。私たちは、この誇るべき道程を、従業員、ビジネスパートナー、投資家など多くのステークホルダーに支えられ歩むことができました。

しかしまだ、すべきことは沢山あります。私たちはこのレポートで2015年までの活動を振り返り、次の5年間を考え、続く2020年のサステナビリティ戦略の目標達成に向けて前進します。



アシックス及びそのサステナビリティ活動の詳細、GRI指標、過去のレポートについては、当社ホームページをご参照下さい。

CORP.ASICS.COM/JP

当レポートやアシックスの企業活動に対する皆様のご意見をお待ちしています。

株式会社アシックス
CSR・サステナビリティ部
〒650-8555
神戸市中央区港島中町 7 丁目 1 番 1

Tel.078-303-1244
Fax.078-303-2211

CEOメッセージ

CSR・サステナビリティレポート2015

2016年初め、アシックスはグローバルでのブランドキャンペーン「WANT IT MORE」を開始しました。このキャンペーンは、限界に挑戦する全てのアスリートを応援するもので、アシックスの魂が反映されています。

60年以上にわたり、私たちは技術革新を推進することで、継続的な向上を目指すアスリートを支援し、スポーツを通して健康で快適な社会の発展に貢献してきました。

このレポートでは、2015年度のサステナビリティ活動だけでなく、5年前に「アシックス・グロース・プラン(AGP) 2015」に基づいて設定した中期サステナビリティ目標の進捗状況についても報告しています。2020年に向け、新たな「アシックス・グロース・プラン(AGP) 2020」を開始するに当たり、このレポートはこの5年を振り返り、今後の活動の方向性を考える良い節目であると考えます。

この5年間はスポーツ用品業界のサステナビリティ活動の取り組みを根底から改めるような様々な進展がありました。特にソーシャルメディアの影響は大きく、安全性や倫理性を欠く労働条件を取り巻くリスクや、複雑なグローバル・サプライチェーンが及ぼす環境汚染などへの関心が高まりました。消費者は企業に対し、製品の原産地や使用素材に関する透明性の向上や倫理的なサプライチェーンの構築を求めています。私たちはこの責務を真摯(しんしん)に受け止め、社会と環境の持続的発展に貢献していく所存です。

アシックスのブランド価値、リーダーシップ、サステナビリティ活動に対するステークホルダーの認知が高まっています。2015年、アシックスはインターブランド社のブランド価値評価ランキング「Japan's Best Global Brands 2015」で、ブランド価値が過去最高となりました。また、投資家からグローバルなサステナビリティ指標と認識されている「Dow Jones Sustainability Index (DJSI)」の「Asia/Pacific Index」対象銘柄にも初めて選定されました。

更に、2015年度は経済産業省と東京証券取引所から健康経営銘柄に選定されました。これもアシックスが企業活動にサステナビリティを積極的に取り込んでいることを社外の外部ステークホルダーから評価された結果と感謝しています。

2016年度、AGP2020とサステナビリティ目標の達成に向けて第一歩を踏み出すに当たり、アシックスは、これからもサステナビリティに配慮した企業活動に取り組んでいきます。

2014年度から実施しているマテリアリティ(重要性)評価により、今後のサステナビリティ活動での優先すべき主要な課題とリスク、そして機会が明確になりました。

2020年そして未来に向け、アシックスはこれらの側面が盛り込まれたAGP2020を指標とし、さらにサステナブルな事業の構築を目指します。

株式会社アシックス
代表取締役社長 CEO

尾山 基



会社概要

アシックスはスポーツ用品及びレジャー用品を製造販売する企業で、26カ国に49の子会社があります。サプライチェーンやビジネスパートナー、世界中のステークホルダーとの連携や各種スポーツイベントへの参画を通して活動の場を広げています。

事業展開地域

23  主要調達先国数

 **7,263** 従業員数

売上高
米州：
136,103
百万円

売上高
その他事業
11,176
百万円

売上高
欧州：
116,022
百万円

売上高
東アジア：
41,945
百万円

売上高
日本：
122,785
百万円

売上高
オセアニア：
22,472
百万円

 **49** アシックスグループ企業数

26  事業所設置国数

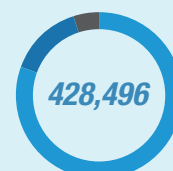
2015年度：

428,496
売上高（百万円）

2015年度：

10,237
純利益（百万円）

分類別売上高（百万円）



- スポーツシューズ類：
80.7%, 346,080
- スポーツウェア類：
14.4%, 61,606
- スポーツ用具類：
4.9%, 20,808

アシックスのサステナビリティ

基本方針

アシックスにとってサステナビリティは常に経営の根幹にあります。創業者鬼塚喜八郎の理念は、現在も私たちの全ての活動に受け継がれています。

Anima Sana In Corpore Sano

アシックスの社名は「Anima Sana in Corpore Sano」(もし神に祈るならば、健全な身体に健全な精神があれかしと祈るべきだ)というラテン語の頭文字を取って名付けられました。これはスポーツと健康が身体だけでなく精神も豊かにし、文化と社会全体への貢献につながるという創業者の経営哲学を反映しています。この信念は現在もアシックスの企業理念として受け継がれています。

サステナビリティの枠組み

アシックスは、サステナビリティ活動を事業の主領域に関連して3つの柱に分類し、それぞれの柱に目的を設定しています。このレポートはそれらの3つの柱を反映した3セクションで構成されています。

1

製品とサービスの創造

理念

- スポーツを通して、すべてのお客様に価値ある製品・サービスを提供する

目的

- 技術革新を行い、お客様のニーズに応える持続可能な製品・サービスを提供し、質の高いライフスタイルを創造します。
- お客様に提供する製品・サービスが安全で高品質であるよう、材料から販売に至るバリューチェーンの全てで管理に努めます。
- 製品の設計や製造工程を始めとする事業活動の全てで環境負荷の低減に努めます。
- 自らの意思決定と事業活動が適切かつ円滑に遂行されるよう、組織体制を整備します。

[13ページへ](#)

2

サプライヤーとの協力

理念

- 私たちを取り巻く環境をまもり、世界の人々とその社会に貢献する

- 健全なサービスによる利益を、アシックスを支えてくださる株主、地域社会、従業員に還元する
- 個人の尊厳を尊重した自由で公正な規律あるアシックスを実現する

目的

- 公正な競争と適正な取引を通じて、利益を創出します。
- 株主、地域社会、従業員に利益を適正に継続的に還元します。
- 生産委託先工場などのサプライヤーに対し、CSRの価値観を共有することを求めます。
- 自らの意思決定と事業活動が適切かつ円滑に遂行されるよう、組織体制を整備します。

[27ページへ](#)

3

人材への投資と社会貢献

理念

- 私たちを取り巻く環境をまもり、世界の人々とその社会に貢献する

- 個人の尊厳を尊重した自由で公正な規律あるアシックスを実現する

目的

- スポーツ文化の発展や人々の健康的な生活につながる活動等を通じて、地域や世界に広がるコミュニティの振興に貢献します。
- 株主、地域社会、従業員に利益を適正に継続的に還元します。
- 多様性と従業員一人ひとりの相互尊重を促進し、個性と創造性を発揮できる環境を整えることで、各個人の成長とともに企業の成長を目指します。

[36ページへ](#)

アシックスのサステナビリティ

ガバナンス

アシックスは、サステナビリティの理念と目的を事業全体に確実に根付かせるため、明確なガバナンスシステムを構築しています。

当社はサステナビリティを全社で共有すべき責任と位置付けており、全部門の全レベルの従業員が関与しています。ボトムアップでサステナビリティのプロジェクトを開始し、その考え方を従業員の日々の活動に浸透させると同時に、トップダウンで組織への統合も行っています。

アシックスではサステナビリティに関する最終責任を取締役会が負っています。経営層は企業目標にサステナビリティを導入し、次段階への方向性を決定します。また、各主要部署はサステナビリティを事業戦略と日々の事業活動に導入します。

当社は2004年にCSR・サステナビリティの専任部署を設置しました。現在、担当者を日本、ヨーロッパ、アメリカに配置し、グローバル体制で活動しています。同部署は、CSR・サステナビリティ活動の実施、パフォーマンスの向上、目標進捗状況の管理、社内外のステークホルダーとの連携を行っています。

信頼の獲得とコンプライアンスの実現

継続した事業の成功には、企業価値の向上とステークホルダーの信頼が欠かせません。透明性の高いコーポレートガバナンス(企業統治)の維持は、その重要な鍵となります。

アシックスは、監査機能と内部統制の向上を企業管理の中で常に模索しています。私たちの目標は、ステークホルダーの視点を反映させ、コンプライアンスの域を超える管理を行うことです。

CSR・サステナビリティの方針

アシックスの全従業員は「アシックスグローバル行動規範」を順守した活動が求められます。アシックスのグループ企業の従業員も同様です。

「ビジネスパートナー管理方針」には、アシックスの全てのビジネスパートナーが順守すべき人権、労働基準、安全衛生等に関する必要最低要件が定義されています。

当社の「グローバル環境方針」には、当事業活動とバリューチェーンでの環境負荷低減に向けた取り組みが定義されています。

当社は、従業員やビジネスパートナーによる規定や方針違反の通報を奨励しており、匿名で非公開に通報できる窓口を設置しています。これにより、迅速な違反の把握と是正が可能となっています。



詳細はホームページへ

アシックスのガバナンスシステムと方針については、当社ホームページをご参照下さい。

corp.asics.com/jp/csr/our-approach/governance-and-policies

アシックスのサステナビリティ

アシックスのマテリアリティ評価プログラム

アシックスの事業は様々なステークホルダーによって支えられています。そして、そのステークホルダーにはそれぞれ異なる優先事項と懸念、そして期待があります。ステークホルダーの意見や重要課題は、アシックスのサステナビリティ活動にとって重要な役割を担っています。

アシックスはマテリアリティ(重要性)評価プログラムを実施し、事業活動にとって重要なサステナビリティ課題を特定しました。そしてその優先度をステークホルダーにとっての重要性及びアシックスの企業戦略に対する重要性に応じて評価しました。この結果は、アシックスのサステナビリティ戦略の基礎及び報告のバウンダリ(境界)形成に反映されます。

サステナビリティ課題と重要性

下図は昨年報告したものを改訂した最新版で、内部ステークホルダーとの協議結果を反映させたものです。

これにより、それぞれの重要課題とそれに関与するステークホルダーが明確になりました。また、取り組むべき活動をより具体化させるとともに、全ての重要な課題を2016年から2020年までのサステナビリティ計画に反映させることができました。

サステナビリティ課題と重要性



アシックスのサステナビリティ

ステークホルダーとの関わり

ステークホルダーはそれぞれで異なります。ステークホルダーにとって最も重要な課題を理解するため、アシックスは定期的に関わりを持っています。それぞれのステークホルダーのニーズ及びアシックスとのビジネス関係に応じて異なる関わり方を採用しています。

ステークホルダー	関わり方	活動と取り組み
お客様	お客様に価値ある製品・サービスを提供し、世界の人々の健康と幸せに貢献します。	お客様からのサステナビリティ関連の質問を記録し、適時適切な対応と関心事項を把握。
株主・投資家	私たちは、経営の透明性の重要性を認識しています。正確かつ明確な情報開示を適時かつ適切に行います。	株主総会、SRI(社会的責任投資) 関連の調査と照会への対応。
従業員	従業員一人ひとりがお互いを尊重し、規律・創造性・意欲を備え、個人の成長とともに会社が成長する企業風土を目指します。	従業員調査、定期会議、サステナビリティ委員会、研修制度。
取引先	より持続可能なバリューチェーンの構築に向け、取引先と協働します。 それには、全ての関係者の連携と深い関与が必要です。	サプライヤーとの定期会議、監査と研修会を実施。
NGO・NPO	NGO・NPOとの継続的な対話を通じ、社会課題や業界への期待を理解し、ともに解決策を模索します。	生産委託先工場の労使問題での協力／各種調査への協力。
政府機関	法令や条例を順守し、意思決定と事業活動が適切かつ円滑に遂行されるよう、組織体制を整備します。	直接的な対話または法案に関する業界との連携。
学術機関	大学や他の学術機関との協働によって、より革新的で持続可能な製品・サービスの開発を促進します。	製品やサプライチェーンでのライフ・サイクル・アセスメント(LCA)、新しいサステナビリティ分野に関する調査や開拓で連携。
業界団体	国内外の業界団体に参画し、他社やステークホルダーと連携・対話を図ることで、業界やバリューチェーンでの共通課題に対するより良い解決策を模索します。	- サステナブル・アパレル連合(SAC)創設メンバー - 世界スポーツ用品工業連盟(WFSGI)メンバー：CSR委員 - 米国アパレル・フットウェア協会(AAFA)メンバー - 欧州スポーツ用品工業連盟(FESI)：サステナビリティ委員 - 国際労働機関(ILO)のベター・ワーク・プログラム・パートナー - 国際的な制限物質リスト管理団体(AFIRM)メンバー
地域社会	スポーツへの参画を促し、健康を推進し、人々の健康の維持・向上と地域社会の発展に貢献します。	従業員によるボランティア、寄付による地域支援、慈善団体との協力。

2020年までのサステナビリティ戦略の策定

重要課題への取り組み

サステナビリティ戦略の立案に当たり、アシックスとステークホルダーの最も重要なサステナビリティ課題を評価するマテリアリティ(重要性)評価プログラムを実施しています。

評価の結果、2020年のサステナビリティ戦略は、アシックスの事業活動を幅広く網羅すると同時に、最も重要な課題に焦点を絞ったものとなりました。この戦略は、「アシックス・グロース・プラン(AGP)2020」のビジョンである「スポーツでつちかった知的技術により、質の高いライフスタイルを創造する」とも整合しています。

2015年は国連の「持続可能な開発目標」(SDGs) が発表され、サステナビリティのグローバルな動きが特に目立った年となりました。同目標には、政府や企業、その他のステークホルダーが取り組むべき重点分野が示されています。また、12月にはバリで国連気候変動枠組み条約締約国会議(COP21) が開かれ、先進国と途上国が参加する法的拘束力を持った協定が初めて採択されました。当社はこれらの国際的な動きも自社の取り組みに反映させました。

2020年に向けて、アシックスはすべての優先課題で意義ある取り組みを続けて行く予定です。2020年の目標が完全に位置付けられない分野に関しては

2020年に向けた活動の方向性を示すべく、2016年の中間目標を策定しました。

2015年、当社はCO₂排出削減の「科学的根拠に基づいた目標設定(SBT)」やILOベターワークプログラムなどの活動を通してステークホルダーと協働しました。この5年間の活動で、サステナビリティ課題への取り組みには、ステークホルダーとの連携が重要であることが明確になりました。有益なパートナーシップの構築こそが、大きな成果を上げる唯一の方法と考えています。私たちは自らの役割を認識し、持続的発展が可能な世界の実現に貢献します。

製品とサービスの創造

- 2016年にスポーツウェア及びスポーツシューズ製品の新しいサステナビリティ基準を定義^{※1}
- 事業所のCO₂排出5%削減(スコープ1と2、2015年度比)
- 事業所からの廃棄物の98%を再利用またはリサイクル^{※2}
- グローバルでの環境マネジメントシステムの確立(主要事業所のISO14001認証取得を含む)

サプライヤーとの協力

- 全1次委託先工場のCレベル以上達成
- 全戦略的パートナー工場のBレベル以上到達とHigg 指標(工場の社会面評価指標)に基づく自主点検
- Aレベル及びBレベルの1次委託先工場のCSR自己ガバナンス訓練とアシックス/第三者認定(例: Higg 指標ほか)の実施
- 全ての主要2次委託先工場のCレベル以上達成
- 主要2次委託先工場の90%がHigg 指標(工場の環境面評価指標)での評価を改善させ基準値以上の評価を獲得
- スポーツシューズ1次委託先工場のCO₂、水、廃棄物の1足当たり10%削減^{※3}
- 戦略パートナーである1次委託先工場の90%がHigg 指標(工場の環境面評価指標)での評価を改善させ基準値以上の評価を獲得

人材への投資と社会貢献

- グローバルでのアシックス人事管理システム及び労働環境の確立
- 株式会社アシックス及びアシックスジャパン株式会社での女性管理職の割合を10%以上に
- 株式会社アシックス及びアシックスジャパン株式会社の全事業部門での女性管理職任命
- 2016年末までにグローバルでの社会貢献活動の方針策定

※1.Higg指標と整合

※2.廃棄物の測定及び報告が可能な事業所

※3.2015年度比

2015年度目標と進捗

2015年は2011年から2015年にかけて取り組んできた「アシックス・グロース・プラン(AGP) 2015」の最終年度でした。

この4年間、アシックスが優先的に取り組んできた3領域：

1. バリューチェーン全体での環境負荷を低減させる
2. 製品・資材の調達先での化学物質管理を向上させる
3. 製品・資材の調達先での労働慣行を適正に保つ

これらの目標の完了を受け、2016年から2020年までの新たな戦略目標を設定します。(8ページを参照)

カテゴリー	2015 年度目標	進捗	関連ページ
製品	- 業界の環境指標の順次適用 - グローバルの評価基準の設定	- サステナブル・アパレル連合(SAC)のHigg指標(製品指標)の開発を支援 - Higg指標とアシックスの製品サステナビリティ評価手法を整合 状況:達成	16
	環境配慮型商品の売上高占有率を35%に向上させる	売上高占有率38.8%を達成 状況:達成(2013年度)	
	化学物質管理の継続的強化	化学物質管理ガイドラインと材料管理システムの強化を継続 AFIRMの制限物質リスト(RSL)の開発を支援し、各企業間の基準の整合を促進 状況:達成	18
材料	新製品に対する環境配慮型素材の積極的採用	製品42品種にリサイクル素材を採用 状況:達成	17
	業界をリードするサステナブルな材料の研究と開発	7つの研究テーマがアシックススポーツ工学研究所で進行中 状況:達成	17

2015年度目標と進捗

カテゴリー	2015 年度目標	進捗	関連ページ
製造工程	直接取引工場のCO₂、水、廃棄物の1足当たり10%削減(2009年度比)^{※1}	2015年度製造の製品に環境負荷低減デザインを適用。また、サプライヤーの環境負荷低減を支援。直接取引工場のCO₂排出を43%、水使用を50%、廃棄物を17%削減(1足当たり。2009年度比) 状況:達成	33
	環境配慮型接着剤(水溶性接着剤)の採用促進:生産量の60%以上^{※1}	全体採用率: 25.5%(導入済み工場での採用率: 42.2%) 状況:未達成	19
	業界をリードするサステナブルな製造工程の研究と開発	7つの研究テーマがアシックススポーツ工学研究所で進行中 状況:達成	17
	新規に契約を締結した1次委託先工場を監査し、アシックス基準の順守を確認	- 新規工場選定工程として新規1次委託先工場のCSR管理水準を確認 - 全新規サプライヤーにアシックスCSR・サステナビリティ基準と方針についての訓練を実施 状況:達成	30、34
	全ての主要1次委託先工場でアシックスのCSR・サステナビリティ基準を順守	100%の主要1次委託先工場の監査を完了(2015年) 93%の主要1次委託先工場が2015年にCレベル以上に到達(監査が2015年度後半にあり評価が低かった7%の工場については、2016年度第1四半期中に改善を実施) - アシックスCSRチームと独立した第三者監査機関とILOベター・ワーク・プログラムなどパートナー団体が139工場で監査を実施 - ベトナム、インドネシア、カンボジアの生産委託先工場がILOのベター・ワーク・プログラム、ベター・ファクトリーズ・カンボジア(BFC) プログラムに加入(カンボジアのアパレル工場は、同国政府から義務づけられているため100%がBFCに加入) 状況:達成	30

※1.対象はスポーツシューズ事業

2015年度目標と進捗

カテゴリー	2015 年度目標	進捗	関連ページ
包装材と輸送	包装資材の重量削減、リサイクル素材の採用	- スポーツシューズへのリサイクル素材の使用、箱のサイズの最適化を継続 - 配送センターでの輸送用包装材のリサイクルと再利用を継続 - アシックスアメリカのEコマース事業で「Give Back Box」を導入 状況：一部達成	20、25
	物流拠点の集約化によるCO₂排出量の削減	- 米国中央配送センターがエネルギースター認証を取得 - 欧州配送センターを合併及び米国配送センターを集約化 - 欧州配送センターでのISO14001認証導入を開始 状況：一部達成	24
	製品輸送コンテナの容積率を85%以上に向上(対象: 国内向け出荷)^{※1}	82%に到達 状況：ほぼ達成	
事業所	CO₂排出量を10%削減^{※2}	2015年度CO₂排出量は3%増加(2011年比) - 売上高当たりのCO₂排出量は21%減少(2011年比) - 欧州配送センター合併と日本の配送センター売却による削減分はグローバル事業の運営拡大に伴い相殺 状況：一部達成	21

※1.対象はスポーツシューズ事業

※2.対象はアシックスの事業所（直営店を除く）

社外からの評価

2015年度、アシックスはサステナビリティへの取り組みと企業市民としての貢献が評価され、数々の認定を受けました。お客様、サプライヤー、投資家及び学術団体ほか、様々なステークホルダーからの支援によるものです。

ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・ワールド・インデックス

「Dow Jones Sustainability Index (DJSI)」の「Asia/Pacific Index」対象銘柄に初めて選定されました。(2015年)

ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・ワールド・インデックスは1999年に初のグローバルなサステナビリティ基準として、企業のサステナビリティを重視する投資家に使用され始めました。^{※1}

より良いサステナビリティ事例を取り入れたい企業の有効な指標となっています。

サステナビリティイヤーブック

また、今回の選定により、評価会社のロベコSAM社が発表する「The Sustainability Yearbook 2016」に掲載されました。

これは世界主要企業のサステナビリティへの取り組みを評価する代表的な発行物です。

健康経営銘柄

経済産業省と東京証券取引所から健康経営銘柄に選定されました。(2015年) 従業員などへの健康の管理と推進活動が評価されました。

MSCIグローバル・サステナビリティ・インデックス

アシックスは「MSCI Global Sustainability Index」の構成銘柄に選ばれました。(2015年)

MSCI社は500種類以上の指標から構成されるESG(環境・社会・ガバナンス)指標を提供しています。同社のグローバル・サステナビリティ・インデックスは、対象指標の各業界内で修正時価総額の50%を占める最もESG評価の高い銘柄で構成されています。

チャンネル・ニュース・アジア・サステナブル・ランキング

チャンネル・ニュース・アジア・サステナブル・ランキングで55位に選出されました。(2015年)

このランキングでは、アジア11カ国(中国、香港、インド、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、韓国、台湾、タイ、日本)の主要インデックス銘柄に選出されている企業の中から、アジアで最も持続可能な企業100社が選出されています。

カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト

CDPは、企業の気候変動対策を評価する国際的な団体です。

温室効果ガス排出量の開示レベルを100点換算によって算出し、最も高い評価を獲得した企業をリージョナル・カーボン・ディスクロージャー・リーダーシップ・インデックスに選定します。アシックスは開示レベルで94点のスコアを獲得し、取り組みレベルでCの評価を得ました。(2015年)

※1 <http://www.sustainability-indices.com/>

製品と
サービスの
創造

**WE ARE
INSPIRED**

アシックスの理念
スポーツを通して、
すべてのお客様に価値ある
製品・サービスを提供する

製品とサービスの創造

アシックスの取り組み

アシックスは、業界トップの製品とサービスを創造することを目指しています。

スポーツを通して、お客様の運動能力の向上と健康的なライフスタイルの促進を支援するとともに、設計、製造工程、そして事業運営を含む製品の全ライフサイクルで、環境と社会への悪影響を最小限に抑えるよう努めます。

当社はこれら2つの目標を科学的な研究、及び製品の設計と製造の全工程でサステナビリティへの配慮を組み込むことで達成します。

そして、製品・サービスだけではなく、お客様の活動やライフスタイルを含めた持続可能なバリューチェーンの構築を目指します。

主な活動結果

- 製品の社会面でのライフ・サイクル・アセスメント(S-LCA)を業界では初めて実施しました。
> 16 ページへ
- サステナブル・アパレル連合(SAC)のHigg 指標(製品指標)開発を引き続き支援しました。2015年度はデザイン・開発指標(DDM)の試験運用に参画しました。
> 16 ページへ
- 欧州と日本の6つの主要ランニングイベント用のスポーツウェア14万8000枚以上に再生ポリエステル素材などを採用しました。
> 17 ページへ
- 業界の化学物質管理改善の優良手法となるAFIRM 制限物質リスト(RSL)の策定を支援し、率先して自社基準に適用しました。
> 18 ページへ
- アシックスアメリカのEコマース事業で、利用者の不要品寄付を支援する「Give Back Box」を導入しました。
> 20 ページへ
- 1742人の高齢者の健康と生活改善を支援する施設トライアスが2015年度グッドデザイン賞を受賞しました。
> 20 ページへ
- 売上高当たりのCO₂排出量を21%削減しました。(2011年比)
> 21 ページへ
- 「科学的根拠に基づいた目標設定(SBT)」に参画し、2020年のCO₂削減目標を設定しました。これにより、世界の平均気温上昇を産業革命前から2℃未満に抑える取り組みを支援しています。
> 23 ページへ

「訓練の効果にとっても満足しています。体が動くようになって、反射神経も良くなっています。」

機能訓練特化型デューサービス施設「トライアス」利用者からのコメント

14,529m³

水使用量を削減(2011年比)

製品とサービスの創造

製品設計と革新

アシックスは製品のサステナビリティ向上のため、製品ライフサイクルの視点から製品設計を行っています。材料調達から廃棄に至る製品のライフサイクルの全ての段階で環境や社会への影響を断続的に調査し、その結果をより良い製品作りに生かしています。また、サステナブル・アパレル連合(SAC)やAFIRMなどの業界内やステークホルダーの協力を通じて、サステナビリティ課題を解決する支援ツールの開発や、業界内の連携の支援に努めています。

ライフ・サイクル・アセスメント(LCA) - 継続的な取り組み

アシックスにとって調査活動は持続可能な製品を開発するための出発点と考えており、ライフ・サイクル・アセスメント(LCA)を実施して製品のライフサイクルの各段階での環境負荷を把握し、改善が必要な課題を特定しています。

2014年度と2015年度は、サプライチェーンでのスポーツウェアのアセスメントを実施し、サプライヤーの環境負荷に対する意識向上を図りました。

2011年度、当社はCO₂排出量の削減に焦点を当てた製品LCAをランニングシューズ「GEL-KAYANO 17」で初めて実施しました。

2013年度には、更に環境負荷の評価範囲を拡大し、当社のスポーツウェア3製品で実施しました。

スポーツウェアのLCAの結果から、製品に関連した環境負荷は、生地製造の工程で最も多く発生しており、環境負荷の低減にスポーツウェア製造工場も重要な役割を担っていることが分かりました。

そのため、2015年度は、サプライヤーでの環境負荷の理解を高めるとともにサプライヤーの意識向上を図るため、台湾とインドネシアの生地サプライヤーとの取り組みを開始しました。実データを基に再度LCAを実施してサプライヤー間の環境負荷の違いの大きさを調べ、得られた知見によって環境負荷低減への支援策の開発を図りました。

調査結果から、サプライヤーの実際のデータとLCAデータベースの汎用データには、大きな違いがあることが分かりました。製品の環境負荷を正確に把握するには、サプライヤーの実際のデータを用いた製品LCAを実施する必要があります。製品全てに幅広く同様に実施するのは容易ではありませんが、引き続き、長期的な視点で実施方法を模索していきます。

また、今回のアセスメントでは、サステナビリティの取り組みを評価する指標を使い、サプライヤーの環境活動への取り組みレベルの違いも調査しました。その結果、取り組みレベルは、生地サプライヤーが高く、衣料サプライヤーが低いことが分かりました。これは製造工程でのリスクの大きさの違いによるものと考えられます。今後は、衣料サプライヤーの環境活動の改善に取り組む予定です。

バリューチェーン



製品とサービスの創造

社会への影響

サプライチェーンは長大で複雑であり、製品の製造が社会に与える影響を完全に理解するのは困難です。アシックスは、更に明確にリスクを把握し管理を向上させるため、ライフ・サイクル・アセスメント(LCA)を発展させ、人権など社会課題への影響の評価(S-LCA)を実施しています。

2015年は、ランニングシューズ「GEL-KAYANO 21」のS-LCAを実施しました。

S-LCAは、ガイドラインなどが急速に発達してきた比較的新しい分野ですが、詳細に手順が確立されるまでには至っていません。

当社は、業界初の試みとなったS-LCAで、労働環境・ガバナンス・人権問題・インフラなど広範な社会課題に関する調査項目を設定して検証しました。

調査によって「GEL-KAYANO 21」の社会課題に関するリスクは、その約50%がシューズの製造段階で発生していることが分かりました。それとは別に、約21%が中国の化学産業でのプラスチック製造段階に関連しているほか、約7%が中国での石炭採掘に関連していることが分かりました。石炭は、製造工程での熱と電気の生成に使われていました。

これらの結果から、サプライチェーンでのリスク管理では製造段階が重要であることが改めて分かりました。また、新規サプライヤーの選定時には、サプライヤーの業務慣行や立地にも十分に考慮する必要があることが分かりました。

Higg 指標の開発と実践

サステナブル・アパレル連合(SAC)が開発したHigg 指標は、製品や工場、企業のサステナビリティ評価をする指標の総称で、様々な分野の指標で構築されています。アシックスはSACの創設メンバーとして同指標の策定に積極的に関与してきました。当社は2018年までに、これまで自社基準として利用していた「エコブランマーク認定基準」を同指標に完全移行する予定です。

当社は2015年も継続して、この指標に基づいて社内の製品サステナビリティ評価の手法開発と導入に努める一方、指標の開発に向けたフィードバックに努めました。アシックスのシューズデザイナーと開発担当者は、指標の実用試験から関与を続けており、2016年の業界全体での試験運用にも貢献しています。

Higg 指標の概念



ランニングシューズ「GEL-KAYANO 21」のS-LCA



製品とサービスの創造

「MetaRun」: 軽量化と耐久性の実現

2015年度、アシックスは長距離を快適に走るために重要となる軽量化と、耐久性を実現するサステナブルなデザイン改革を施した高機能ランニングシューズ「MetaRun(メタラン)」を発売しました。

「MetaRun」には「GEL-KAYANO 21」よりも約30%軽量化で約8%耐久性が向上したミッドソール素材である「FlyteFoam(フライトフォーム)」を使用しています。また、製造工程で効率的に素材を利用できるようにデザインし、更なる環境負荷の低減を実現しました。

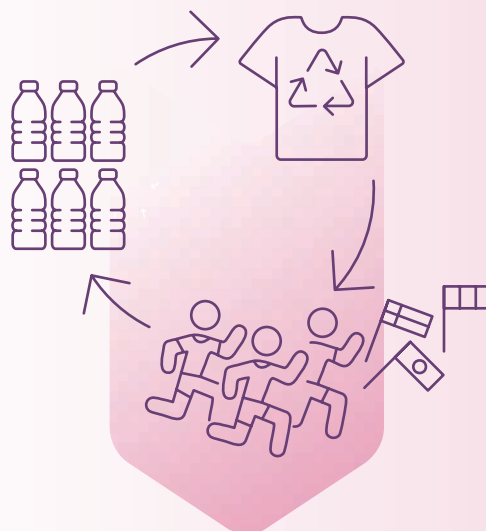


再生ポリエステル繊維の採用

アシックスは、より環境に配慮した製品作りの取り組みとして、スポーツウェアとスポーツシューズ製品に、再生ポリエステル繊維を採用しています。再生ポリエステル繊維は、当社商品だけではなく、アシックスがスポンサーを務めるランニングイベントへの提供品でも採用されています。2015年度は、バルセロナ、フランクフルト、ストックホルム、パリのマラソン大会に向け、土産品とボランティア用シャツなど、合わせて148,000点を作成しました。

そのほか、神戸マラソンと東京マラソンでは、約30%植物由来ポリエステル繊維を引き続き採用しました。

再生ポリエステル繊維の採用



7

2015年度、アシックススポーツ工学研究所では、7つの研究プロジェクトが「材料廃棄物の削減」、「環境に配慮した製造技術」、「材料開発」を軸に行われました。

概要

製品と
サービスの
創造サプライヤー
との協力人材への
投資と
社会貢献

製品とサービスの創造

化学物質管理

アシックスは、事業を展開している全ての国で、化学物質の製品、環境、人に対する安全性に関わる法規を順守しています。当社では、製造工程の一環として、生産委託先工場で化学品安全に関する予防監査を実施しています。また、そのほか化学物質に関わる様々な安全試験を行い、安心できる製品をお客様にお届けできるよう努めています。

「アシックス化学物質管理・運用ガイドライン」は、化学物質管理に関する法令順守と業界基準への適合を確認するため、アシックスとサプライヤーの製品の設計工程と製造工程での化学物質の管理と使用に関して定義したものです。全てのサプライヤーは、このガイドライン要件を順守する必要があります。

当社は、ガイドラインの最新の改訂版に、リスク評価と業界基準に基づき化学物質使用を厳しく制限している「AFIRM RSL」(RSL=制限物質リスト)を盛り込む予定です。AFIRMは、国際的な制限物質リスト管理団体です。AFIRM RSLでは、コンプライアンスの確認時に使用すべきサンプルの前処理方法と試験方法についても規定されています。

AFIRM:化学物質管理の業界共通指標

アシックスはAFIRMのメンバーです。同団体への関与を通して、業界内での化学物質管理に関する知識の構築と共有に貢献し、また、含有禁止化学物質に関するサプライヤーのリスク管理とコンプライアンス活動の効率化を支援しています。

2015年度、アシックスはAFIRM初のRSLの開発に携わりました。このRSLは、サプライヤーが化学物質管理の知識と手法の確立、及び規制順守や分析検査実施に当たってのAFIRMメンバーとの共通基盤作りに活用できるものです。

また、製品の化学物質管理に関する業界基準の統合に役立つほか、サプライヤーのコンプライアンス向上の効率化を図ることができます。当社は、同リストの適用を積極的に支援しており、2016年度にAFIRM RSLを「アシックス化学物質管理・運用ガイドライン」の主要要素として採用する予定です。



製品とサービスの創造

製品の安全性と品質の管理

アシックスは製品の安全性と品質を重大な責務と捉え、事業全体でそれらの保証に関する方針や、日本工業規格(JIS)などの国際的品質管理原則に基づくガイドラインを定め、全ての製品がお客様にとって安全であるよう努めています。

当社は全従業員に品質管理の原則の履行を徹底しています。品質保証と品質管理システムに研修は欠かせません。当社は、従業員研修はもとより、生産委託先工場に対しても研修と認定を行っています。

当社は製品の安全性と品質の向上のための活動を展開し、表示や販促物についても広範囲に製造物責任審査を実施しています。

製造工程の一環として、生産委託先工場で不定期に監査を実施しています。また、製品開発の際にも、企画、設計、製造、出荷の全工程で耐久性試験や染色堅牢度試験から高度な化学分析までを含む様々な試験をしています。

リコール

	2011	2012	2013	2014	2015
製品及びサービスの品質、情報、表示に関する規制や自主基準への不遵守によるリコールの総数。	6	6	5	1	6

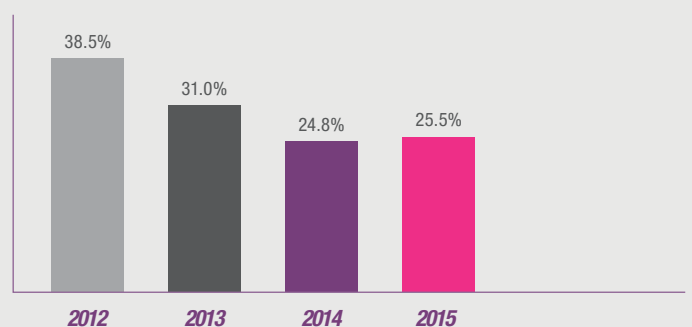
2011年度から2013年度までは4月起算の会計年度に基づく。2014年度は会計年度変更に伴い、4月1日から2014年12月31日までのデータ。

スポーツシューズ製造で使用する水溶性接着剤

スポーツシューズを製造する上で接着剤は必要不可欠です。例えば、靴のアップパー（甲被）とソール（底）を貼り合わせるのに接着剤を使用します。しかし、接着剤は適切に管理されなければ労働者の健康と安全そして環境に大きな影響を及ぼします。

多くのスポーツシューズ製造に使用される接着剤には溶剤が配合されています。アシックスでは製造工程からのVOC（揮発性有機化合物）排出の削減に向け、2015年度までにスポーツシューズ生産量の約60%で水溶性接着剤を使用するという目標を設定しました。しかしながら、当社製品の需要の高まりに対応するため新しい工場に生産を依頼した場合に、水溶性接着剤に対する専門知識の不足や専用ラインの未整備などで多くの工場が対応できなかったため、この目標には到達できておりません。そのような状況を踏まえ、水溶性接着剤に関する新たな目標を2017年度に設定します。

水溶性接着剤を採用しているスポーツシューズ生産量の割合



製品とサービスの創造

健康的で持続可能なライフスタイルの推進

スポーツを通じて健康的なライフスタイルを推進するという考え方は、アシックスの経営の根幹です。スポーツの国際大会や全国レベルの教育活動、そして各地の草の根イベントまで、人々のスポーツへの参加を促進し、健康志向の高い社会を創造するための活動を幅広く支援しています。

高齢者の健康と生活改善

アシックスは、2014年度に兵庫県西宮市に機能訓練特化型サービス施設「Tryus(トライアス)」を開業し、スポーツ科学の知見から高齢者の健康と生活の向上推進に取り組んでいます。「Tryus」は高齢者の運動機能向上を目的とした施設で、当社の新しい事業です。現在、関西圏で5施設を開業し、従業員40人が常勤しています。2015年度の施設利用者数は1742人でした。

「Tryus」は2015年度のグッドデザイン賞を受賞しました。

お客様への提案

包装材の再利用など、社会に貢献できる循環型システムを消費者の皆様とともに推進したいと考えています。

そのため、アメリカでは2015年度にチャリティー団体Goodwillの活動「Give Back Box」と提携しました。

通販サイトから当社製品が配達された際の箱を使って不要の衣服やシューズ及びその他家庭用品を無料で同団体に送ることができるもので、同団体がそれを販売して得られた利益は、職業のあっせんや職業訓練などのコミュニティサービスに還元されます。



1. 箱を開ける
返送料別納の送り状を
取り出す



2. 箱に入れる
不要な衣類や家庭用品
を入れる



3. 箱を送る
送り状を貼付して
発送する



2,852

2014年開業以来の「Tryus」利用者数

製品とサービスの創造

環境負荷の低減

アシックスは、お客様に環境負荷の低減を考慮した製品を設計・提供するとともに、オフィス、直営店、配送センターで環境負荷を低減することに努めています。

環境活動の管理

アシックスグループは、アシックスのグローバル環境方針に基づいて環境サステナビリティ活動を管理しています。また、複数の事業所で環境マネジメントシステムISO14001認証を取得しています。

アシックスは全事業所に環境方針とその他要求事項の順守を義務付けています。また、環境活動実績の報告やグローバル管理システムに記録されるデータなどを通して、各事業所のサステナビリティ活動がアシックスのグローバル戦略と連携していることも確認しています。当社は全事業所で、Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Action(改善)のサイクルに基づき、環境活動の継続的改善に取り組んでいます。

当社は2000年度から環境マネジメントシステムを導入しており、2015年度にはイギリスの配送センターが認証を取得しました。現在、従業員の18%がISO14001の認証取得事業所で働いています。

2016年度には当社グループでは欧州最大のドイツの配送センターが認証を取得する予定です。

当社は2020年度までのサステナビリティ戦略の一環として、主要事業所での認証取得を推進していきます。

エネルギー、水、廃棄物など、環境重要課題は事業所によって異なります。例えば、広い作業空間が必要なために延べ床面積が大きい配送センターでは、エネルギー使用と廃棄物の管理は優先課題ですが、水使用の管理は比較的小さな課題です。

エネルギー効率とCO₂排出量

アシックスは、2011年度から事業所の直接的なエネルギー使用量をグローバル規模で測定し、そのエネルギー効率の向上とCO₂排出量の削減に取り組んでいます。

2015年度は、直営店を除く事業所でのCO₂排出量の10%削減を目標に掲げていましたが、事業拡張などの影響で、排出量は3%増加しました。

CO₂排出量の合計を売上高と比較した場合、エネルギー効率は改善されたことが分かりました。当社は、売上高当たりの排出原単位を2011年度比で21%削減しました。

CO₂の絶対排出量の削減は、当社にとって重要な課題です。2016年度から2020年度にかけては、2015年度に直面した問題や課題を反映させ、より効果的なプログラムを導入します。

2015年度は、いくつかの省エネルギー化プロジェクトを実施しました。米国と欧州の販売子会社を新社屋へ移転した際に、人感センサーライトやソーラーパネルの採用、効果的な断熱の導入により省エネルギー化を図りました。

また、欧州のアシックスグループでは、再生可能エネルギーの調達を推進するため、集中的エネルギー調達に関する見直しを開始しました。2016年度には成果が得られる見込みです。

当社は今後も従業員による日々の省エネルギー活動を促進するほか、省エネルギーとCO₂排出量削減の新たな取り組みを検討していきます。

主要業績評価指標(KPI)：CO₂排出量・売上高当たり

	2011	2012	2013	2014	2015
売上高当たりのCO ₂ 排出量	0.072	0.080	0.068	0.066	0.056
基準年と比較した増減率(%)		12%	-6%	-7%	-21%

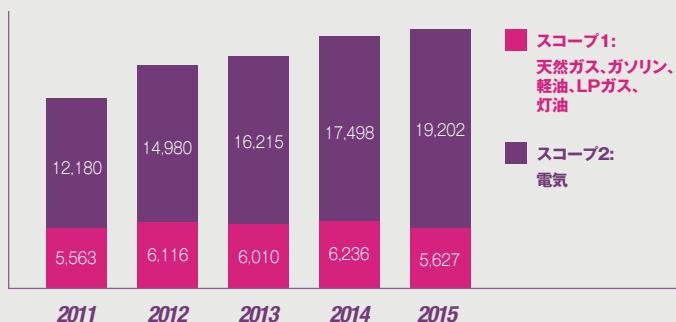
総売上高の百万円当たりのCO₂排出量合計を算出

21%

売上高当たりのCO₂排出量を21%削減しました。
(2011年度比)

製品とサービスの創造

事業所からのCO₂排出量 (単位: トン)
直営店を含む



オフィス、直営店、配送センター、生産子会社を含むアシックスグループのデータです。社有車・リース車からの排出量も含まれます。

国内グループのデータは、「地球温暖化対策の推進に関する法律」(温対法)に基づく係数を用いて算出しています。また、電力の排出係数には0.410kg-CO₂/kWhを使用しています。海外グループのデータは、GHG プロトコルが提供する係数を用いて算出しています。個別に使用エネルギー量を把握できない事業所については、以下の数式に基づき算定しています。(事業所形態ごとの単位面積当たりの使用エネルギー量) × (事業所面積) × (CO₂排出係数)

2011年度、2012年度、2013年度、及び2014年度のデータは、再集計を行ったため、前回のレポートと一部異なる部分があります。
2015年度のCO₂排出量情報は、株式会社トーマツ審査評価機構による第三者保証を受けています。

科学的根拠に基づく温室効果ガス排出削減目標

アシックスは、2015年の国連気候変動枠組み条約締約国会議(COP21)に先駆け、科学的根拠に基づいた温室効果ガスの排出削減目標を策定しました。

これは、世界自然保護基金(WWF)、国連グローバル・コンパクト、世界資源研究所(WRI)、英国のNPO・CDPが推進している行動計画「サイエンス・ベースド・ターゲット・イニシアチブ(SBT)」に基づくものです。

同計画は、気候変動への影響を最小限に抑えるために必要な数値目標を示すことにより、各企業の温室効果ガス削減への取り組みを支援しており、各企業には産業革命前からの気温上昇を2℃未満に抑えるのに必要な水準の脱炭素化が求められています。

製品のライフ・サイクル・アセスメント(LCA)により、事業所以外で大量の温室効果ガスが排出されていることが分かりました。COP21の目標達成には、裾野を広げたバリューチェーンでの社会的な温室効果ガス削減への取り組みが不可欠です。アシックスはサプライヤーやステークホルダーと協力し、COP21の目標達成に努めます。

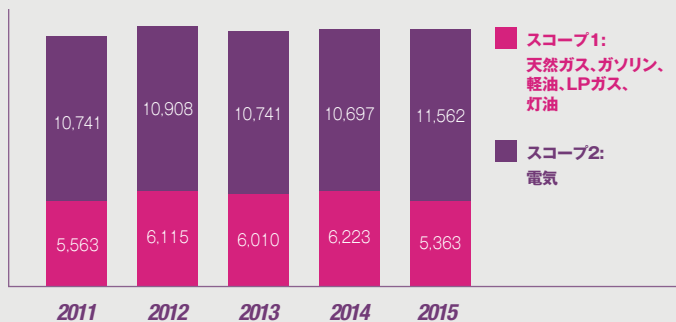
2020年の事業所での温室効果ガス削減目標の設定に「部門別低炭素化手法(SDA)」を適用しました。SDAは様々な産業の企業での温室効果ガス削減目標の設定を支援するオープンソースの手法です。

当社は、2020年の目標設定だけでなく、将来も同様の取り組みを継続する予定です。

また、スコープ3の新しい温室効果ガス削減目標も設定しました。スコープ3での最大の要素であるスポーツシューズの生産委託先工場に焦点を絞った目標です。

サプライチェーンでの温室効果ガス削減活動についての詳細は33ページをご参照下さい。

事業所からのCO₂排出量 (単位: トン)
直営店を除く



オフィス、配送センター、生産子会社を含むアシックスグループのデータです(直営店を除く)。社有車・リース車からの排出量も含まれます。

製品とサービスの創造

スコープ3でのCO₂排出量(輸送、製品の製造、廃棄管理を含む)

これまでの製品のLCAの取り組みから、製品に関連したCO₂排出量の多くが製造工程で発生しており、アパレル製品に関しては、使用時(洗濯時)にも多く発生していることが分かりました。また、工場から市場への製品を輸出する際もCO₂が排出されています。そのため、当社はこれらの間接的要素に伴うCO₂排出

量の削減を考慮したサステナビリティ戦略を立てています。また、事業活動の変化に伴う環境影響の変化を評価するために、グループ全体の間接的なCO₂排出量(スコープ3)を測定しています。2015年度は、引き続きスポーツシューズの生産委託先工場に焦点を絞り、工場でのエネルギー効率の向上と再生可能エネルギーへの移行を支援しました。(詳細は33ページをご参照)

2015年度スコープ3でのCO₂排出量

スコープ3算定カテゴリー	単位:トン	構成比	スコープ
1.購入した製品・サービス	273,014	76.9%	スポーツシューズの生産委託先工場でのCO ₂ 排出量データと日本のアシックスグループ会社のスポーツウェア類、スポーツ用具類、マーケティング及びセールス部門の購入データ(算定方法*1)
2. 資本財	6,117	1.7%	日本のアシックスグループ会社のデータ
3. スコープ1、スコープ2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	1,650	0.5%	アシックスグループ全体のデータ
4. 輸送、配送(上流)	52,702	14.8%	トラック/鉄道輸送は、港から配送センターへの輸送(欧州、米州、日本)及び配送センターから顧客への輸送(日本)のデータです。船舶輸送と航空輸送は、スポーツシューズ事業のデータです。
5. 事業から出る廃棄物	226	0.1%	アシックスグループ全体のデータ
6. 出張	4,738	1.3%	アシックスグループ全体のデータ
7. 通勤	795	0.2%	日本のアシックスグループ会社のデータ
8. リース資産(上流)	-	-	算定していません
9. 輸送・配送(下流)	-	-	算定していません
10. 販売した製品の加工	-	-	算定していません
11. 販売した製品の使用	-	-	算定していません
12. 販売した製品の廃棄	15,665	4.4%	日本のアシックスグループ会社のデータ
13. リース資産(下流)	-	-	算定していません
14. フランチャイズ	10	0.0%	日本のアシックスグループ会社のデータ
15. 投資	-	-	算定していません
合計	354,917	100%	

スコープ3でのCO₂排出量の情報のうち、カテゴリー1.購入した製品・サービスについては、株式会社トーマツ審査評価機構による第三者保証を受けています。

*1 算定方法(カテゴリー1)
「生産委託工場でのエネルギー消費量×生産委託工場でのアシックス製品の取扱割合×各エネルギーの排出係数」(スポーツシューズ) + 「物品・サービスの購入金額×各購買物品・サービスに係る排出原単位*2」(スポーツウェア類、スポーツ用具類、マーケティング及びセールス部門)

*2 環境省「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(ver.2.2)2015年3月」の「[5] 産業連関表ベースの排出原単位」

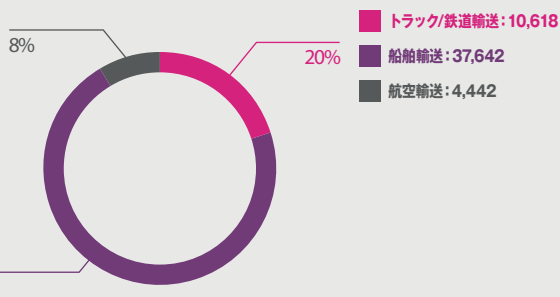
製品とサービスの創造

物流

アシックスは、2013年度から物流ネットワークの効率化を推進し、船舶や鉄道など、エネルギー効率に優れた輸送形態の利用に努めてきました。

2015年度は、欧州市場の製品出荷拠点としての欧州配送センターが稼働を開始したことを受け、複数の小規模センターを閉鎖しました。また、日本国内の配送の中核を担うアシックス物流株式会社の全株式を丸紅ロジスティクス株式会社に譲渡しました。これにより、日本国内の物流システムが更に効率的になることが期待されます。

2015年度の輸送でのCO₂排出量 (単位:トン)



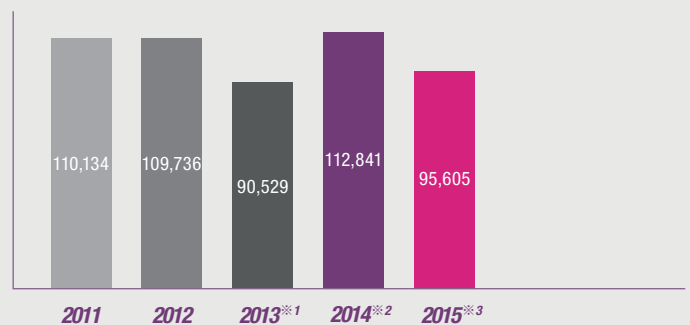
トラック/鉄道輸送には、港から配送センターへの輸送(欧州・米州・日本)、配送センターから顧客への輸送(日本)のデータが含まれています。

船舶輸送と航空輸送はスポーツシューズ事業のデータです。GHGプロトコルが提供する係数を用いて算出しています。

水使用量の削減

2015年度も引き続き、アシックスグループは全事業所での水使用量の削減に努めました。また、新社屋への移転や改装に際しても、節水能力の高い設備や、水を使用しない設備の利用を検討しました。2015年度は、水使用量を2011年度比で13%削減しました。事業所での水使用量の削減は、従業員数なども考慮する必要があるため、現在は重要な戦略とは位置付けていませんが、2013年度から2014年度にかけての実績から、水漏れへの迅速な対応と効率的な水使用に関する従業員研修が引き続き重要であることが分かりました。水漏れは、この期間の水使用量の主な増加要因でしたが、現在は改善されています。

水使用量 (m³)



※1 26カ所

※2 27カ所

※3 25カ所

製品とサービスの創造

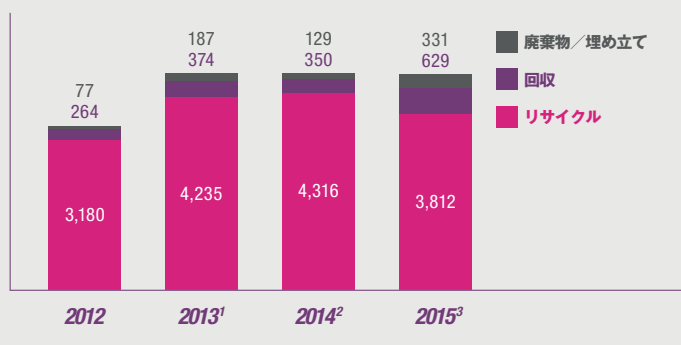
廃棄物と資源効率

アシックスは、廃棄物の削減と埋め立て処分ゼロの活動に取り組んでいます。全てのオフィスと配送施設で、段ボールや紙、プラスチックなどの分別リサイクルを義務付けています。また、いくつかの配送センターでは、輸送用包装材の再利用により、包装材の廃棄物化を防止しています。リサイクルが実施できない施設では、埋め立て処理ではなく焼却処理によるエネルギー回収を優先させています。

2011年度から2015年度は、企業全体の廃棄物の把握とリサイクル率の高い水準での維持を優先させました。いくつかの事業所ではそれぞれ独自のリサイクル率と廃棄物削減の目標を設定しました。例えば、2015年度は、アシックスヨーロッパで、従業員が簡単にゴミを分別・リサイクルできるようにゴミ箱を改良し、循環経済に関する意識の向上を図りました。ペットボトルからリサイクルした再生ポリエステルを使用したスポーツウェア製品など、製品へのリサイクル素材使用に対する認識が高まったことも、従業員のリサイクル意識向上につながりました。

廃棄物のリサイクルと回収(トン)

2015年度、アシックスは廃棄物の93%をリサイクルしました。



1 アシックスグループ19社のデータ

2 アシックスグループ16社のデータ

3 アシックスグループ17社のデータ

製品とサービスの創造

環境会計

アシックスは、2010年度から日本の主要事業所2カ所で環境保全に関する投資額を算出してきました。当社は経営の意思決定に投資効果を反映させるために「環境会計」を導入しています。

2015年度は、会計システムに省エネ活動に関連したコスト削減推定額を組み込みました。将来的には、環境会計の報告項目を追加し、統合報告を目指します。

(単位:千円)

分類		主な取り組み内容		2015		
				投資額	費用額	年間コスト削減額の推定
1	事業所内コスト			75,672	65,208	3,459
	公害防止コスト	点検・検査及び分析費用		0	20,716	0
	地球環境保全コスト	省エネ機器の導入費用、省エネカーの導入		75,672	26,962	0
	資源循環コスト	リサイクル素材の使用、省エネ設備の導入		0	17,530	3,459
2	上・下流コスト	グリーン調達など		0	22,818	0
3	管理活動コスト	ISO14001 管理費用など		0	21,724	0
4	研究開発コスト	環境配慮型製品開発など		16,724	106,324	0
5	社会活動コスト	地域環境支援、寄付など		0	391	0
6	環境損傷対応コスト	土木汚染修復など		0	0	0
7	その他環境保全に関するコスト			0	0	0
合計				92,396	216,465	3,459

A woman with brown hair in a bun is performing a handstand on a pink yoga mat. She is wearing a white tank top and colorful, abstract-patterned leggings. Her legs are bent at the knees, and her feet are pointing towards the ceiling. The background is a brick wall with a large window on the right side, letting in natural light. The overall atmosphere is calm and focused.

サプライヤー
との協力

**WE ARE
CONNECTED**

アシックスの理念

- ・私たちを取り巻く環境をまもり、世界の人々とその社会に貢献する
- ・健全なサービスによる利益を、アシックスを支えてくださる株主、地域社会、従業員に還元する
- ・個人の尊厳を尊重した自由で公正な規律あるアシックスを実現する

サプライヤーとの協力

アシックスの取り組み

アシックスの事業は、製品製造に関わるサプライヤーを始めとするグローバルサプライチェーンによって支えられています。これらの全サプライチェーンで労働条件を改善し、公正なビジネスを運営することは、当社の重要な責務です。

そのため、当社は、サプライヤーとその従業員と密接なパートナーシップを構築し、労働慣行の改善と労働者保護に努めています。

アシックスの企業活動は、国際的な基準と慣行に沿って明確に定められた行動基準に則って行われています。当社は、そのアシックス基準を理解してサステナビリティ活動及び公正な労働慣行の推進に取り組むビジネスパートナーとのみ、継続的な事業ができると考えています。

主な活動結果

- | | | | |
|---|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1次委託先工場132社を監査しました。
> 30ページへ | <ul style="list-style-type: none"> 中国、ベトナム、インドネシアの生産委託先工場105社の205人を対象に研修会を実施しました。
> 34ページへ | <ul style="list-style-type: none"> カンボジアの全生産委託先工場で第三者による建築物安全監査を実施しました。
> 31ページへ | <ul style="list-style-type: none"> アシックスグループの全1次委託先工場にサプライチェーン管理プログラムを適用しています。
> 29ページへ |
| <ul style="list-style-type: none"> 主要1次委託先工場の93%がアシックス労働コンプライアンス基準でレベルC以上の評価を得ました。
> 30ページへ | <ul style="list-style-type: none"> スポーツシューズの1次委託先工場で、シューズ1足当たりのCO₂排出量を43%、水使用を50%、廃棄物を17%削減しました(2009年度比)。
> 33ページへ | <ul style="list-style-type: none"> 日本のNGOや政府機関と協働し、ベトナムとカンボジアの2工場で省エネルギーに監査を施しました。
> 33ページへ | |

93%

1次委託先工場の93%が2015年度末までにアシックス労働コンプライアンス基準でレベルC（法律や国際的労働基準を順守している水準）以上の評価を得ました。（残り7%の工場については、継続的な改善を行っています）

「アシックスの活動（人権保護）は海外からの出席者に非常に高く評価されていました。アシックスはサプライチェーン管理のリーダーとして、そしてアジア地域の観点から、2020年に向けて大きな貢献が出来るでしょう。」
「2015年ビジネスと人権に関する国際会議 in 東京」での人権ビジネス研究所(IHRB)のコメント

サプライヤーとの協力

サプライチェーンの管理

アシックスは長年で複雑なサプライチェーンに影響力を持っていることを自覚し、その責任を真摯(し)に受け止めています。

当社のサプライチェーン管理プログラムは、サプライチェーンの水準維持と向上を図るようデザインされています。

コンプライアンスとコミットメント

アシックスのサプライチェーン管理プログラムは、コンプライアンスの徹底と、自主的な改善の促進を原則としています。サプライヤーにはアシックス基準、地域基準、国際基準の順守が義務付けられ、同時に、アシックス及びその他業界ステークホルダーと協働し、更なる改善を目指すことが求められます。

プログラムは、監査とリスク管理、ガバナンスと透明性、研修と能力向上、ステークホルダーとの関わりの4領域で構成されています。

影響と責任

アシックスのサプライチェーンは長年で複雑です。お客様に最高の製品をお届けするため、23カ国にある1次委託先工場200社以上が、それぞれの施設や専門技術などの事業資源を提供しています。そして、その1次委託先工場の多くもまた、それぞれが大きなサプライチェーンを持っており、アシックスグループと世界中の多くの企業や事業を間接的に結びつけています。

アシックスがサプライチェーンに与える影響力は大きく、その責任は直接的な関係のない範囲にまで及びます。当社はパートナーシップの取り組みを通して、これら全ての範囲での基準の向上を目指しています。

コンプライアンス

1.

監査とリスク管理

- カントリーリスク評価
- サプライヤー評価ツール
- 監査
- 改善計画
- 危機管理

2.

ガバナンスと透明性

- サプライヤーとの契約
- 基準、ガイドライン、マニュアル
- 会社規程及び方針
- データ管理とシステム
- 内部・外部コミュニケーション

コミットメント

3.

研修と能力向上

- 研修会
- 効率性・生産性に関する連携
- 事業へのCSR・サステナビリティの導入

4.

ステークホルダーとの関わり

- 業界での連携 (SAC、WFSGI、ベタネットワーク)
- ステークホルダーとのオープンかつ建設的な対話 (組合、NGO、メディア)
- サステナビリティレポートの発行

サプライヤーとの協力

工場評価

生産委託先工場を新たに選定する際は、契約を締結する前に、アシックス基準によってその工場を評価します。

アシックスは、取引開始後も継続的に監査を行い、生産委託先工場を定期的に評価しています。監査には自社監査、委託監査、パートナーによる監査の3種類があります。更に、サプライヤーとその下請け業者の順守レベルを調べるための自主点検も実施しています。

これらの評価結果は、当社の他の工場評価システムやリスク分析プログラムにも取り込まれます。

自主点検には、サプライヤーのアシックス基準に対する認識を深める効果もあります。

自社監査

当社のCSR担当者が監査員として現場確認、資料確認、経営陣へのインタビューをします。アシックスの考え方を詳しく経営陣に説明し、意見交換をしながら、問題点の抽出や改善策の立案をしています。

委託監査

監査会社に依頼して実施する監査です。現地の法規や言語、文化に精通したプロの監査員が行うことで、従業員の声など自社監査では集めきれない情報を得ることができます。

パートナーによる監査

複数ステークホルダーとの取り組みの一環として、サプライヤーとの協働で実施される監査です。2007年度から2012年度までのパートナー監査は公正労働協会(FLA)が実施しました。2013年度の2件の監査はILOベター・ファクトリーズ・カンボジア・プログラム(BFC)が実施しました。アシックスは2014年1月にILOベター・ワーク・プログラム及びBFCの正式パートナーとなりました。

自主点検

アシックスの評価項目に基づいて工場側が自らの状態を確認するものです。将来的には、SACのHigg指標のような業界共通の指標や仕組みを利用してサプライヤーによる自主管理にもつなげたいと考えています。

年度	自社監査	委託監査	パートナーによる監査	計
2007	31	27	11	69
2008	34	36	8	78
2009	10	23	10	43
2010	32	22	8	62
2011	41	10	8	59
2012	36	13	7	56
2013	52	37	2	89+2
2014	93	34	5	132
2015	80	52	7	139

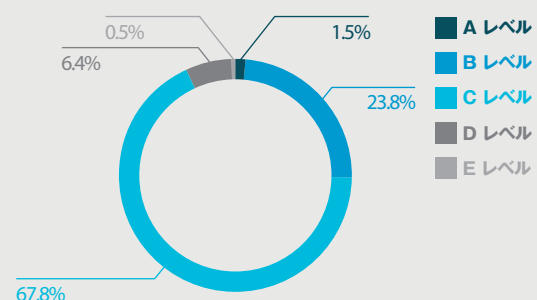
監査基準と工場評価

当社は17項目の評価基準によって、1次委託先工場を評価しています。それぞれの項目を1(要大幅改善)から5(卓越)の5段階で評価した後、総合評価をし、A(卓越)からE(要大幅改善)に分類します。

当社では、監査基準のうち、強制労働、児童労働、虐待とハラスメント、賃金、差別、労働時間を重点管理項目と定めており、不順守があった場合には厳しい対応策を講じています。

下図は2015年度末時点での1次委託先工場の評価です。

2015年度末時点での1次委託先工場の評価



132

2015年に実施した監査数
(自社監査80件、委託監査52件)

サプライヤーとの協力

不順守への対応

監査で見つかった不順守は、緊急度と労働者へのリスクの高さに基づいて分類されます。当社は、強制労働、児童労働、虐待とハラスメント、賃金、差別、労働時間に対する不順守を重度の違反と見なし、ビジネス提携の停止や発注計画の見直し、第三者調査の実施などを検討します。

不順守が軽微の場合、改善期間(3カ月以内)を設け、期間内の是正策の実施を求めており、研修の実施や関連情報の提供などで改善を支援します。

危機管理

アシックスの工場評価システムは、法令、国際的な労働基準、業界内の基準や最新動向と連動したもので、監査で得られた情報を基にアシックスグループ共通の方法でその工場のCSR水準を採点するものです。労働者に対するリスクを定量的に示し、個々の工場の課題と傾向のほか、当社生産委託先工場全体での傾向も把握することができます。

そのため、改善が必要な事柄が見つかった場合に、特定の工場への改善支援が必要なのか、業界全体にわたる問題として他社や地域との連携が必要なのかなどが判断しやすくなっています。

2013年度、アシックスのカンボジアでの生産委託先工場で建物の一部が崩壊する事故が発生し、労働者2名が亡くなり、12名が負傷しました。当社は今後の同様の事故を防ぐため、カンボジアの全生産委託先工場にILOのBFCプログラム加入を義務付けました。これは、安全で公正な労働条件の確保、カンボジアに特化したCSR管理や自主点検への支援を提供するのが目的です。

また、全工場の第三者建築物診断の実施を求めました。これにより、カンボジアの全委託先工場でBFCとカンボジア政府承認の現地コンサルタントによる建築物診断が実施され、すべての工場で基準が満たされていることが2015年度末までに確認されました。

監査範囲の拡大

2013年度、従来は1次委託先工場を対象とした監査の2次委託先工場への実施を開始しました。

2015年度、グローバルアパレル・エキップメント統括部の主要2次委託先工場20社が自主点検を実施しました。これらの工場は同統括部の生産量の約60%に関わっています。

自主点検の結果から、調査対象のうち80%の工場がアシックス基準を順守していることが分かりました。なかでも、賃金基準では90%の順守率を達成していました。更に、2次委託先工場の77%が独自の監視・維持システムを確立し、労働条件と環境基準の順守に努めていることも明らかになりました。

また、スポーツシューズのサプライチェーンでの監査を拡大し、1次委託先工場が製造を委託しているアッパー（甲被）、ソール（底）の2次委託先工場への監査を実施しました。

当社は2020年度までに主要2次委託先工場のレベルC以上の達成を目指しています。

80%

主要2次委託先工場の80%がアシックス基準レベルに達しています。(2015年度の自主点検結果)

100%

2020年までに100%の主要2次委託先工場のCレベル達成を目指します。

サプライヤーとの協力

部門間の連携

CSR・サステナビリティの専任部署を始めとするアシックスグループの全スタッフは、事業を安全かつ倫理的で持続可能なものにする重要な役割を担っています。

例えば、生産や調達に携わる部門は、サプライヤーと密接な関係にあるため、サプライヤーの現状把握に大きな役割を担っており、監査の実施、改善への提案、研修などの内容の検討などにも深く関わっています。

また、日本、欧州、米国のCSR担当者が定期的に集まって研修や会議をすることでサプライチェーン管理の洗練を図っています。



ベトナムで日本、欧州、米国のCSR担当者の合同による監査及び戦略調整会議を実施

方針とガイドライン

私たちは国際的基準に沿った明確な行動基準を策定し、企業活動を行っています。

生産委託先工場を含むアシックスの全サプライヤーは、「アシックスグローバル行動規範」、「ビジネスパートナー管理方針」を順守しなければなりません。当社はまた、「グローバル環境方針」も別に定めています。これら指針及び方針は、公平で安全なサプライチェーン構築への方向性を明示するものです。

アシックスの方針とガイドラインの詳細については弊社ウェブサイトをご参照ください。

業界基準の統一

当社は、サプライチェーンの継続的な改善と同時に、様々な業界やステークホルダーとのパートナーシップを通じて、サプライチェーン全体の業界評価基準の統一も図っています。

2014年度後半から2015年度中頃にかけて、アシックスの主要生産委託先工場32社を対象に、サステナブル・アパレル連合(SAC)の環境面と社会面のHigg指標に基づくセルフアセスメントをオンラインで実施しました。

その結果、環境面の指標では60%、社会面の指標では85%の順守率に達しており許容水準であることが分かりました。

これは、サプライヤーの自立的な点検と改善を促す取り組みが成果を上げていることを示しています。

業界の協働については35ページをご参照下さい。

サプライヤーとの協力

製造時の環境負荷の管理

アシックスは環境に配慮した経営を実践するサプライヤーと協働していきます。

アシックス製造に関わる多くの部分をサプライチェーンに委託しており、環境負荷の大部分はサプライチェーンで発生しています。また、製品LCA評価の結果から、スポーツシューズ関連は製造段階で、スポーツウェア関連は生地やウェアの製造段階と消費者による使用段階で最も多く環境負荷が発生していることも分かりました(15ページ参照)。当社はサプライチェーンの環境負荷低減を進める責任があると認識しています。

直接取引工場での環境負荷

2011年度から2015年度にかけて、スポーツシューズの生産委託先工場との協働で製造時の環境負荷を低減する製品設計に取り組んできました。

また、サプライヤーに環境マネジメントシステムの導入も奨励しています。2015年度は、1次委託先工場と協働し、一足当たりのCO₂排出量を2009年度比で43%削減できました。更に、一足当たりの水使用量を50%、廃棄物量も17%削減することができました。

	単位	2009	2012	2013	2014	2015
CO ₂ 排出	1足当たり (Kg)	4.49	3.61	3.07	2.38	2.57
水	1足当たり (m3)	0.1	0.11	0.06	0.05	0.05
廃棄物	1足当たり (Kg)	0.23	0.16	0.16	0.16	0.19
リサイクル	トン	1,263	1,425	1,670	2,538	2072

スポーツシューズ製造全体の95%以上を占める中国、ベトナム、インドネシア、カンボジア、タイの25工場のデータです。

43%

2015年度、1次委託先工場と協働でスポーツシューズ1足当たりのCO₂排出量を43%削減しました。(2009年度比)

今後も継続してサプライヤーの主要な環境指標を測定しながら、更なる環境負荷低減を支援し、アシックス製品全体の環境負荷低減につなげていきます。当社は現在、スポーツシューズ製造工場に関連した環境負荷を測定しており、近年中にこの取り組みをスポーツウェア部門まで拡大する予定です。また、サプライヤーとも更に密接に協働し、継続的に環境管理の改善に取り組みます。

サプライヤーとの協働

サプライチェーンでのエネルギー効率向上を図る際、エネルギー管理システムや設備の改良に必要なノウハウの不足が問題になることがあります。2015年度、当社はその解消に向け、経済産業省が推進する二国間クレジット制度(JCM:Joint Crediting Mechanism)に基づき、同省の委託事業としてマイクロライメイトジャパン株式会社とともにカンボジアとベトナムの当社生産委託先工場2カ所でJCM実現可能性調査を実施。CO₂を削減しエネルギー効率とエネルギー供給バランスを改善する仕組みの構築を目指しました。

この調査の第一段階として、工場の監査を実施し、費用対効果が高いと見込まれる36種類のエネルギー効率化対策を特定しました。この対策を実行した場合、年間464トンのCO₂排出量削減が可能となります。当社はサプライヤーにこの監査結果を提示し、現在、改善策の導入について協議しています。また、この監査結果を他の生産委託先工場のCO₂排出量削減とエネルギー効率改善にも活用しています。

また、この調査では開発途上国のサプライヤーがエネルギー効率を改善する際に直面する課題も明らかになりました。監査で特定された改善課題の多くが工場のノウハウの不足に関連したものでした。この課題は、サプライヤーに向けて研修と意識向上を行い、生産委託先工場で利用できるツールを提供することで改善することができます。

また、改善策に相応の費用対効果が見込まれる場合でも、工場単独では省エネルギー措置に必要な予算の確保が難しく、多くの場合、取引先や政府の援助を必要としています。

「アシックスの省エネルギー化プロジェクトのおかげで生産工程の見直しができ、廃棄物の削減や労働条件の改善などの環境対策に重点を絞ることができました。当社は今、改善策の実行と拡大に積極的に取り組んでいます。私たちは皆、地球環境の恩恵を受けているのですから。」
Pou Yuen Vietnam Company Limited (PV)
機能部門ディレクター
ジョイス・チェン氏からのコメント

サプライヤーとの協力

研修と能力向上

アシックスは、サプライヤーが継続的に労働条件の改善と環境負荷の低減を行うためには、それらの基準の認識と、管理システムの構築と運用が不可欠であると考えています。

アシックスは、サプライヤーでの認識向上及び管理システムの構築と運用のためには研修と能力向上が欠かせないと考えており、ILOベター・ワーク・プログラムなどの第三者機関のステークホルダーと協力してサプライヤー向けの研修を実施しています。

研修はサプライヤーの将来的なコンプライアンス上の問題回避と、労働者と従業員の良好な関係構築に役立ち、最終的に、労働者の安全と健康、そして製品の品質と生産性の向上につながります。

当社はそれぞれの製造拠点に必要な研修を特定しており、2015年度は3つの能力向上研修会を実施しました。

アシックスはまた、ILOベター・ファクトリーズ・カンボジア・プログラム(BFC)と協働し、カンボジアのサプライヤー 22社にも研修を実施しました。

研修では、管理スキル、消防安全、報酬、労働者及び労働組合の権利と責任など、幅広い課題を取り上げました。



「アシックスとの活動を通して、工場全体のCSRに対する意識が向上しました。特に、工場の監査と改善指導により、経営者から従業員まで、全体の理解・意識が向上したと実感しています。」

セミナーでは、CSRの最新動向を知ることができ、大変有意義な機会となりました。」

ベトナムのスポーツウェア工場

TEIJIN FRONTIER (VIETNAM) CO., LTD. からのコメント

中国・上海

主な内容：－ 消防安全
－ 電気機械安全
－ 化学品安全

99人 59社

参加した人数とサプライヤー数

ベトナム・ホーチミン

主な内容：－ 消防安全
－ 電気機械安全
－ 化学品安全

66人 33社

参加した人数とサプライヤー数

インドネシア・ジャカルタ

主な内容：－ 従業員の権利
－ 労使関係
－ 苦情処理メカニズム

40人 13社

参加した人数とサプライヤー数

サプライヤーとの協力

パートナーシップ

スポーツ業界全体でのサプライチェーンの労働基準と労働条件の改善を推進するため、アシックスはNGOや業界内のステークホルダーと協働しています。オープンな話し合いを持つことで、スポーツ業界の将来形成に向けて積極的に貢献していきます。

NGO及びパートナーとの連携の主な例は以下のとおりです。

NGO	事例
経済人コー円卓会議 (CRT)	経済人コー円卓会議(CRT)は、持続可能で社会的責任のあるビジネスを通じて、社会をより自由かつ公正で透明なものとするを目的としたビジネスリーダーのグローバルネットワークです。アシックスはCRTが人権ビジネス研究所などと共同で開催した「2015年ビジネスと人権に関する国際会議 in 東京」で、サプライチェーンの倫理的な職場環境を推進する取り組みを紹介しました。
ILOベター・ワーク・プログラム／ベター・ファクトリーズ・カンボジア・プログラム	ベター・ワーク・プログラム(BW)とベター・ファクトリーズ・カンボジア・プログラム(BFC)では、工場の管理層や労働者向けのさまざまな研修やアドバイスサービスが提供されています。これらは国際労働機関(ILO)と国際金融公社(IFC)の共同事業の一環です。当社はBW及びBFCの日本では初めてのパートナーです。労働条件の向上、労働安全衛生の推進、児童労働の防止など、カンボジア、ベトナム、インドネシアの生産委託先工場の継続的な改善に貢献していきます。
人権ビジネス研究所 (IHRB)	人権ビジネス研究所(IHRB)は、企業の人権尊重及び人権侵害に加盟しない体制作りを政策の形成、取り組みの促進、責任体制の強化などを通じて促進している団体です。 当社はIHRB が東京とスイスで開催した「2015年ビジネスと人権に関する国際会議」で、苦情処理メカニズムなどの人権保護の取り組みについて発表しました。
Oxfam (オックスファム)	アシックスはオックスファムと協働し、インドネシアで「FOAプロトコル」(結社の自由に関する議定書)の遂行についての周知と状況の確認をしました。当社は2011年から同議定書に加盟し、結社の自由及び団体交渉の権利を尊重し、保護しています。労働者の要求が確実に聞き届けられるよう、生産委託先工場の管理層と組合代表者による自由で効果的なコミュニケーションを奨励しています。
サステナブル・アパレル連合 (SAC)	SACはアパレル及びシューズ業界にサステナビリティ基準を世界規模で導入しようと取り組んでいる団体で、アシックスは創設メンバーとして参画しています。当社はサステナビリティの観点から製品性能及びステークホルダーとのコミュニケーションを向上させるため、SACのHigg指標を自社の活動に導入していきます。
ウィルトンパーク・スイス会議	2015年のスイス会議で、アシックスはサプライチェーンのリスク管理基準と苦情処理メカニズム強化のためのコミュニケーションの促進方法を発表しました。
世界スポーツ用品工業連盟 (WFSGI)	WFSGIは世界規模のスポーツ業界団体です。WFSGIのゴールドメンバーとして、アシックスは環境保護、社会貢献、ガバナンスなどの幅広いWFSGI基準と整合した企業経営を行っています。
Verité (ベリテ)	サプライチェーンでの移民労働者に対する人権侵害への懸念が高まりを見せています。ベリテが2015年に東京で開催したイベントで、アシックスは他の30社とともに、雇用の透明性、強制労働、労働条件、労働者の海外での権利についての認識など、世界的な移民の流れと移民労働者を取り巻く課題について議論を交わしました。

人材への
投資と
社会貢献

WE ARE
ONE

アシックスの理念

私たちを取り巻く環境をまもり、世界の
人々とその社会に貢献する
個人の尊厳を尊重した自由で公正な規律
あるアシックスを実現する

人材への投資と社会貢献

アシックスの取り組み

アシックスは、創業哲学に基づき、人々と社会に貢献できる企業でありたいと考えています。これは、従業員を支援し、事業展開する地域社会に貢献することを意味しています。

当社は従業員の声に耳を傾け、ニーズを満たし、成長が実現できる環境の整備に努めています。

また、スポーツ用品企業として、人々がスポーツを楽しむことのできる、明るい世界の実現に貢献したいと考えています。そしてグローバル企業として、私たちの商品を使うお客様のみならず、世界の人々と地球環境を尊重します。寄付やチャリティー活動、社会投資を通じて、地域社会を支援します。

主な活動結果

- クラウドベースの人事マネジメントシステムを導入し、パフォーマンス管理と人材育成をグローバルに連携しました。
[> 38 ページへ](#)
- 将来の成長に向けて組織を強化しました。
[> 38 ページへ](#)
- 所在地域の社会活動に68万8161ドルの支援を行ったほか、48万1238ドル相当の物品提供をしました。
[> 40 ページへ](#)

7,263

全世界の従業員数

「素晴らしい1日でした!子どもたちもボランティアも一生懸命でしたし、同僚と親睦を深めることもできました。」

アムステルダムの子どものためのスポーツイベントに参加したアシックスヨーロッパ従業員のコメント

人材への投資と社会貢献

従業員への投資

アシックスにとって従業員は最も大切な財産です。従業員の意欲を高め、個人の成長とともに会社が成長できる企業文化の醸成を目指します。また様々な人事プログラムを通して、多様性を受け入れ、従業員一人ひとりが互いに尊重し、個性と創造性が発揮できる環境を整えていきます。

グローバルに連携した人事制度

2015年度、アシックスは引き続き、新しいクラウドベースの人事マネジメントシステム「SAPサクセスファクターズ」(SF)の導入に取り組みました。

SFは、新人研修、パフォーマンス管理、採用、学習・開発、後継者管理、人材管理と分析など、重要な人事管理を幅広くサポートする人材管理ソフトウェアパッケージです。

事業戦略の連携やチーム行動、従業員パフォーマンスの向上に役立ちます。人事管理をグローバル全体で連携させることで、管理職と従業員との間での業務目標の設定やコンピテンシー（期待される行動特性）の設定、能力開発などの状況の把握がしやすくなり、業務と人材育成の効率向上につながります。

人材育成研修

個人と組織の成長にとって教育は重要です。グローバルで活躍できるリーダーを早期かつ継続的に育成することを目的とした選抜研修に加えて、階層別研修も強化するなど研修体系を充実させ、個人及び組織の成長と競争力の向上を図りました。

各地の事業所では、アシックスグループ全体の統一性を保ちながら、それぞれのニーズと特性に合わせた研修を実施しています。新入社員教育のほか、ハラスメント防止、多様性、マネジメント能力向上、健康と安全などの研修があります。

創業哲学に基づく取り組み

「Anima Sana In Corpore Sano(健全な身体に健全な精神があれかし)」は、頭文字が社名となったというだけではありません。これは私たちの創業哲学であり、従業員の労働環境を含む、全ての活動の基礎となっています。

アシックスは従業員の健康的な生活を支援する職場作りにも取り組んでいます。当社のオフィスは人間工学に基づき、快適な光が差し込む空間であるだけでなく、そのいくつかには更衣室とシャワー設備を備えたジムもあります。従業員はヨガなどのクラスを受講したり、チームスポーツを楽しんだり、定期的開催されるスポーツやイベントに参加したりなど、職場以外でも同僚と交流できます。また、新鮮なフルーツなどの健康に配慮した食事を提供する社員食堂や、社外のスポーツジムの会員割引などもあります。

人材への投資と社会貢献

組織改変によるビジネス強化

アシックスは、中期経営計画「アシックス・グロース・プラン(AGP) 2015」に基づき、持続的な成長に向けた組織体制の改革を進めました。

その一例が日本国内事業の構造改革です。アシックスジャパン株式会社にその子会社であるアシックス販売株式会社を吸収合併し、意思決定の迅速化、業務プロセスの改善、組織構造のスリム化を目指しました。

この構造改革により、早期希望退職者339人が退社しました。当社はこの従業員の再就職活動を支援しており、現在までに60%が再就職を果たしています。

また、今後の事業環境の変化に迅速に対応するため、アシックス物流株式会社を丸紅ロジスティクス株式会社に売却し、それに伴う従業員の転籍がありました。

2015年度はまた、グローバル経営の最適化とビジネス成長の加速化を目的とした組織再編や、センター・オブ・エクセレンス(COE) 構想に基づく新しい責任者の任命などの計画も発表しました。

COE 構想は、優秀な人材をカテゴリーごとに最も重要な地域に配置し、そこからグローバルカテゴリーを先導することによって、グローバル事業の強化を図るものです。

2015年9月には、オニツカタイガーやアシックスタイガーなどのライフスタイルブランドのグローバル市場をリードするグローバルライフスタイル統括部を新設しました。

スポーツシューズ部門とスポーツウェア部門の強化もまた、重要なビジネス成長戦略です。2015年度は更に、製品の設計と開発、製造機能を統括するグローバルフットウェアプロダクト・マーチャンダイジング統括部を設置し、競争力のある製品開発に向けた活性化も図りました。

また、改革に伴ってグローバル化する従業員の転勤についても、従業員本人の利益とキャリア形成を両立できるよう支援を行っています。

多様性を強みに

アシックスは世界中で働く7263人から成るチームです。新しいアイデアを引き出し、事業を革新するためには、ダイバーシティ（多様性）の実現が不可欠です。従業員及び職場環境の多様性の促進に様々な施策をし、全ての人の声が傾聴され成功の機会が与えられるように努めています。

特に、日本の株式会社アシックスは、多様性を人事部門の重要な視点の一つと位置付け、ダイバーシティを担当するチームやプロジェクトを通して実現に取り組んでいます。

2015年度の活動：

- 社内交流プログラムと英語研修
- 日本人以外の中途採用者を対象とした企業文化研修
- 経団連による女性リーダーシップ研修
- 女性のキャリア向上のための社内キャリアデザイン研修及び女性リーダーのためのロールモデル会議

現在、株式会社アシックスとアシックスジャパン株式会社の女性管理職の割合は6.7%です。2020年度には全ての部門で女性管理職を任用し、この割合を10%に引き上げたいと考えています。

人材への投資と社会貢献

社会貢献

アシックスは、事業展開する地域の発展に貢献したいと考えています。資金援助や物品提供などの寄付のほか、ボランティア、災害支援、健康的で持続可能な生活の推進など、様々な形で貢献しています。

アシックスは様々なニーズを持つ様々な地域で事業展開しており、支援活動もその多様なニーズを反映しています。2015年度は身近な地域から事業所のコミュニティ、途上国まで、幅広く社会貢献活動を行いました。

そのうち資金や物品による支援活動では、2015年度は68万8161ドルの資金援助、スポーツ用品や各種設備及び食料品など48万1238ドル相当の物品提供をしました。

次ページに2015年度の主な活動の概要をまとめています。

従業員ボランティア活動



アシックスの社員は、世界各地の事業所所在地域で定期的なコミュニティ支援のボランティア活動を行っています。恵まれない子どものためのスポーツイベント開催やコーチ指導、フードバンクやがん研究資金イベントのボランティア、自然保護地域の清掃など、様々な活動をしています。

被災地支援

被災地支援は常に重要なコミュニティ活動の一つです。2015年のネパール大地震の際は、世界各地のアシックスグループを横断しての募金キャンペーンを初めて実施し、全地域の従業員が被災者の支援を行いました。従業員から集められた義援金には、当社から同額のマッチング拠出をし、セーブ・ザ・チルドレンのネパール大地震緊急支援活動に寄付しました。

\$688,161

資金援助

\$481,238

スポーツ用品や各種設備及び食料品などの物品提供支援

人材への投資と社会貢献

NPO・GIRLS ON THE RUNへの支援

アシックスアメリカは、ランニングを通じて少女たちの健康と幸福そして自信の増進に貢献しているNPOのGirls on the Runに協力しています。

公式スポンサーとして、全米225の支部へのシューズや健康プログラムのほか、ボランティア活動の機会も提供しています。

また、当社がスポンサーを務めるトップアスリートと協力し、メンバーの少女たちを訪問する「meet and greets」などの活動も支援しています。



あしたへ、スポーツとともに

2011年4月、アシックスは「A Bright Tomorrow Through Sport あしたへ、スポーツとともに」というプロジェクトを開始しました。これは、東日本大震災で被災した子どもへの継続的支援活動で、スポーツを通して心身の健全な発達を促進することを目的としています。

- hand to hand プログラム：震災孤児を対象に、満19歳を迎えるまで当社スポーツ用品を毎年継続的に提供します。
- スポーツ選手訪問プログラム：トップアスリートが被災地を訪問し、スポーツ教室の開催などで、子どもにスポーツを楽しむきっかけを提供します。
- 健康運動支援プログラム：社員や協力スタッフが被災地域を訪問し、健康支援のための運動指導やイベントを実施します。
- 神戸招待プログラム：神戸市に本社を置くアシックスは、1995年の阪神・淡路大震災で大きな被害を受けました。このプログラムは、被災地域の子どもを神戸のアシックススポーツミュージアムやアシックススポーツ工学研究所などに招待し、スポーツの楽しさや復興した神戸に触れることで活力を取り戻してもらう活動です。



人材への投資と社会貢献

小学校でのラグビーの支援

欧州、中東、アフリカのアシックスグループは南アフリカ共和国・ラグビー協会「Adopt-a-School」プログラムを支援しています。ラグビーはタックルの代わりに相手プレーヤーの腰に巻かれた「タグ」を取るというルールのラグビーです。

このプログラムは、恵まれない環境に育つ小学生にスポーツの楽しさを提供し、健康と自信の増進に役立てるもので、当社は2015年度には5つの小学校のスポンサーとなり、1,872人の子供たちにスポーツ用品を提供したほか、コーチによる指導への資金援助をしました。

慈善団体 SYMPANY(シンパニー) への支援

欧州、中東、アフリカのアシックスグループはまた、地域コミュニティの持続可能な将来の実現に貢献するため、慈善団体シンパニーの支援を続けています。

シンパニーは、アシックスの古い在庫品を集め、赤十字などのための資金調達を行うなど、途上国のサステナビリティ、自立と教育を支援する様々な活動を行っています。同団体は、衣料製造にリサイクル生地を採用するための様々な動きへの支援など、活動の範囲を拡大しています。

同団体との協力により、当社の在庫品は廃棄されることなく、地域社会に役立っています。



1,872

南アフリカでラグビーの指導を受けた子どもの人数



独立した第三者保証報告書

2016年6月10日

株式会社アシックス

代表取締役社長 CEO 尾山 基 殿

株式会社トーマツ 審査評価機構
東京都千代田区丸の内三丁目3番1号

代表取締役社長

箱 永 弘



株式会社トーマツ審査評価機構（以下「当社」という。）は、株式会社アシックス（以下「会社」という。）が作成した WEB サイトの「サステナビリティレポート 2015」の「事業所からの CO₂排出量 直営店を含む」に記載されている 2015 年度の CO₂排出量（スコープ 1、2）、及び「2015 年度スコープ 3 での CO₂排出量」に記載されているカテゴリ 1「購入した製品・サービス」の CO₂排出量（スコープ 3 カテゴリ 1）、以下「CO₂排出量情報」という。）について、限定的保証業務を実施した。

会社の責任

会社は、会社が採用した算定及び報告の基準（CO₂排出量情報に注記されている）に準拠して CO₂排出量情報を作成する責任を負っている。また、CO₂排出量の算定は、排出係数と数値データの決定に利用される科学的知識が不完全である等の理由により、固有の不確実性の影響下にある。

当社の独立性と品質管理

当社は、誠実性、客観性、職業的専門家としての能力と正当な注意、守秘義務、及び職業的専門家としての行動に関する基本原則に基づく、国際会計士倫理基準審議会の「職業会計士の倫理規程」が定める独立性及びその他の要件を遵守した。また、当社は、国際品質管理基準第 1 号「財務諸表の監査及びレビュー並びにその他の保証及び関連サービス業務を行う事務所の品質管理」に準拠して、倫理要件、職業的専門家としての基準及び適用される法令及び規則の要件の遵守に関する文書化した方針と手続を含む、包括的な品質管理システムを維持している。

当社の責任

当社の責任は、当社が実施した手続及び当社が入手した証拠に基づいて、CO₂排出量情報に対する限定的保証の結論を表明することにある。当社は、「国際保証業務基準 3000 過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務」（国際監査・保証基準審議会）、「国際保証業務基準 3410 温室効果ガス報告に対する保証業務」（国際監査・保証基準審議会）、及び「サステナビリティ情報審査実務指針（サステナビリティ情報審査協会）」に準拠して、限定的保証業務を実施した。

当社が実施した手続は、職業的専門家としての判断に基づいており、質問、プロセスの観察、文書の閲覧、分析の手続、算定方法と報告方針の適切性の検討、報告書の基礎となる記録との照合又は調整、及び以下を含んでいる。

- ・会社の見積り方法が、適切であり、一貫して適用されていたかどうかを評価した。ただし、手続には見積りの基礎となったデータのテスト又は見積りの再実施を含めていない。
- ・データの網羅性、データ収集方法、原始データ及び現場に適用される仮定を評価するため、事業所の現地調査を実施した。

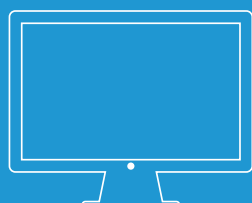
限定的保証業務で実施する手続は、合理的保証業務に対する手続と比べて、その種類と実施時期が異なり、その実施範囲は狭い。その結果、当社が実施した限定的保証業務で得た保証水準は、合理的保証業務を実施したとすれば得られたであろう保証水準ほどには高くない。

限定的保証の結論

当社が実施した手続及び入手した証拠に基づいて、CO₂排出量情報が、会社が採用した算定及び報告の基準に準拠して作成されていないと信じさせる事項はすべての重要な点において認められなかった。

以 上

Member of
Deloitte Touche Tohmatsu Limited



詳細はホームページへ

アシックス及びそのCSR・サステナビリティ活動の詳細、過去のレポートについては、当社ホームページをご参照下さい。

CORP.ASICS.COM/JP